特集 ■ AGEsと女性医療

2 AGEsと心血管病

田原宣広[1)] TAHARA Nobuhiro
田原敦子[2)] TAHARA Atsuko
戸次宗久[2)] TOTSUGI Munehisa
杦山陽一[2)] SUGIYAMA Youichi
緒方詔子[2)] OGATA Noriko
本多亮博[2)] HONDA Akihiro
山岸昌一[3)] YAMAGISHI Sho-ichi
福本義弘[4)] FUKUMOTO Yoshihiro

久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科部門
1)准教授　2)助教　4)教授
3)昭和大学医学部内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 教授

はじめに

アテローム性動脈硬化症の危険因子として，喫煙，高血圧，脂質異常症，糖尿病などが知られており，中でも糖尿病は冠動脈疾患，脳血管疾患，閉塞性動脈硬化症の合併頻度が極めて高い．糖尿病症例における動脈硬化症の増加の一因としてリポタンパクの酸化や糖化の亢進の他に，高血糖状態により促進的に生成される終末糖化産物(advanced glycation end products：AGEs)が関与していることが示唆されている．

糖尿病推計調査

厚生労働省は糖尿病の推計を4～5年ごとに行っており，6.0%≤ HbA1c <6.5%を「糖尿病の可能性を否定できない者(糖尿病予備群)」，HbA1c ≥6.5%を「糖尿病が強く疑われる者(糖尿病有病者)」と判定している．「2016年国民健康・栄養調査」では，糖尿病が強く疑われる者が約1,000万人と前回2012年の調査より50万人増え，調査を開始してから最多となった．また，糖尿病の可能性を否定できない者が約1,000万人と推計され，2012年より100万人減少した．2012年以降，糖尿病予備群は減少傾向にあるが糖尿病有病者は増加の一途をたどっている(**図1**)．わが国では男性の28.5%，女性の21.4%が糖尿病か糖尿病予備群であることが示され，成人人口の4人に1人が糖代謝異常を有していることになる．

糖代謝異常の増加に伴って血管合併症を有する患者数も増加している．糖尿病は，インスリンの分泌障害や作用不全によって慢性の高血糖が引き起こされる代謝疾患であるが，生活の質と生命予後を悪化する代謝性心血管病と言える．糖尿病の動脈硬化進展には，インスリン抵抗性，フリーラジカルなどの酸化ストレス，タンパク質の糖化により形成されたAGEsなどの因子が関連していると考えられている．

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.